

第215回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成28年1月7日(木) 11:00~12:00

2 開催場所 宇都宮グランドホテル

3 委員の出席 委員総数 7人  
出席委員数 6人

(1) 出席委員の氏名 片山 貴之 (委員長)  
古磯 勝子 (副委員長)  
青木 敬信  
君島 理恵  
畠山 大  
町田 明久

(2) 欠席委員の氏名 早川 富美子

(3) 放送事業者側出席者 大森 敏秋 (代表取締役社長)  
佐藤 望 (放送部長)  
古寺 雄史 (放送部課長)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換  
(2) その他  
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

12月20日夜に放送した「教えてドクター」の特別番組について、試聴と意見交換を行った。

事業者

11月29日、栃木県総合文化センター会議室を会場に、獨協医科大学の平田副院長による認知症をテーマにした基調講演や、毒蝮三太夫さんによる「元気で長生きするコツ、させるコツ」の講演の他、司会の弊社アナウンサーを加えた3人のトークセッションを行いました。

そのトークセッションの様子を、朝の生ワイド番組「B-UP」で毎週放送しているコーナー「教えてドクター」のスペシャル版として放送しました。

## 【 番 組 の 試 聴 】

委員：

毒蝮さんは、明るいキャラクターを活かし、常に話にユーモアを交えて、「認知症」という重くなりがちな話でも、聞く人誰もの興味を惹きつけるように、トークの力で話の内容に強く引き込んでいた。

また、彼の「認知症であることを隠す時代では無くなった」という言葉はトークセッションの全ての会話の中でも、とてもシンボリックなメッセージだった。

委員：

毒蝮さんの話は面白く、そのトークを飽きることなく聞くことが出来たが、このテーマでのトークセッションとしては、明らかに喋り過ぎだった。

特に、平山先生が解説し始めても、すぐにその話に割って入ってしまうため、先生の話が不完全燃焼のまま、次の話題に行かざるを得ない場面も多々あった。

番組の本来の狙いを汲み取りきれずに、トークを楽しませ過ぎたように感じた。

委員：

平山先生はユーモアもあり、かつ落ち着いてポイントを押さえて話していたので、その話がとても分かりやすかった。しかし、やはり、毒蝮さんからの突っ込みが入って、話のリズムが崩れてしまった箇所が何度かあった。

委員：

番組は、認知症について興味を持たせる入り口としては成功したが、その内容は、認知症についての基本的な知識を確認するオーソドックスな内容に留まっていた。

もう少しこの問題に踏み込んで、新たな視点での提案、対処法が聞きたかった。

委員：

第3部のトークセッションだけで番組が構成されていたが、第1部・第2部の基調講演などの内容が十分に冒頭部で触れられておらず、公開講座当日の参加者と第1部・第2部を聞いていないリスナーとの温度差があった。

事業者：

第3部のトークセッションの中でも、第1部・第2部の内容が重複して話されていたため、思い切って第3部だけで編集し、番組にする判断にした。

委員：

例えば、トークセッション司会の鹿島田アナウンサーが第1部・第2部の内容を振り返ってから、平山先生や毒蝮さんに質問をするなど、第3部から放送を聞くリスナーを意識した司会進行があってもよかったのではないか。

また、オープニングパートから、公開録音パートに移る際の間も説明もなく、番組としてはかなり唐突感があった。

委員：

3人のトークセッションだったが、鹿島田アナは途中は笑い声だけしか聞こえず、最初と最後の挨拶の言葉ぐらいで司会者としての仕切りが番組内からは感じられなかった。

司会の役割は毒蝮さんに取られてしまった格好で、結果、毒蝮さんと平山先生 2人だけのトーク

セッションのようだった。

シンポジウムの司会は大変だと思うが、打ち合わせの段階で質問事項や話の流れを確認するなどして、うまく仕切ってほしかった。

委員：

トークセッション部分をそのまま編集して放送していたが、番組としてはほとんど工夫が感じられなかった。FM放送局らしいアクセントを演出に加えるなど、番組としての聞かせ方をより深く丁寧に考えて、イベント全体の設計図を組み立ててほしい。

委員：

この公開講座の当日の参加者については？

事業者：

定員いっぱいの約200人の参加が集まってくれ、安堵した。放送に加えて、パンフレット等も作成してこのイベントを告知したが、実際は、放送を聞いて参加を決めた方がほとんどだった。

参加者はおおむね60歳以上の高齢者が多く、弊社が従来はボリューム層と考えていた年齢層が近年は確実に上がっていることを改めて感じた。

委員：

全体的には思わず聞き入ってしまう内容だった。やはり、このようにトークを中心に構成する番組は、出演者のトークの力がどうしても重要になってくるものであり、人選が大切だなと感じた。

この放送をきっかけに、これまで、この問題にあまり興味のなかった若い世代にも情報を伝えることが出来たと思う。こういう番組、企画は社会的に意義があり、今後も、公共のメディアとして現代社会で問題になっていることを積極的に番組にしていく形で取り上げてほしい。

(以上)

(2) その他

なし

(3) 次回開催日程について

次回の開催を3月3日(木)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日

なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

(1) 放送 1月31日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内

(2) 書面 本社事務所に備え置き

(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項

なし